

CMSで サクサク更新 ウェブサイト

ウェブサイト
イントラネット
ホームページ



text : 増田"maskin"真樹 illust : 小松恵

第6回

Movable Typeを使って情報配信サイトを作る② 複数のメンバーでBlogを運営しよう!

ウェブサイト
イントラネット
ホームページ



Movable Typeで作る「最強のウェブ制作チーム」

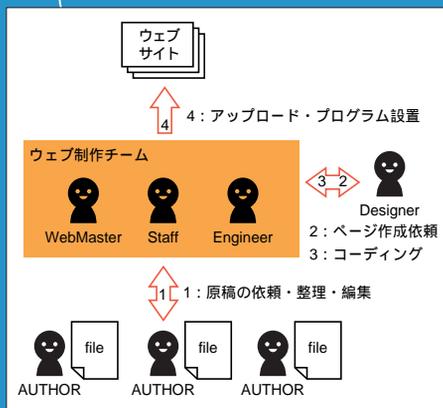
「CMS」という言葉を頻りに耳にするようになった。効率良い魅力的なウェブサイトの運営が望まれているのだ。Blog構築システム「Movable Type」では、デザインテンプレートを作っておけば、メールを書くような感覚でコーディングの手間なく自動でページが作成される。しかも、複数のメンバーが参加できるので、1人のウェブマスターが運営に四苦八苦することもなくなるのである。

Movable Typeで変わる ウェブ制作チーム

前回は、Movable Type(以下MT)の仕組みや特徴と、インストールの手順を紹介した。今回は、MTの基本操作と、「チーム」運営について解説する。鮮度が重要な要素となるウェブサイトでは、チームは重要な意味を持つ。図1を見て「ウチと同じだ」と思ったウェブ制作チームはマズイ。人力に頼って高コストになっているか、限られたスタッフに負担がかかっているかだ。「デザイナーとは言いつつ実は何でも屋」と言われるこのようなチーム編成で失敗しているウェブサイトは、実際に無数にある。

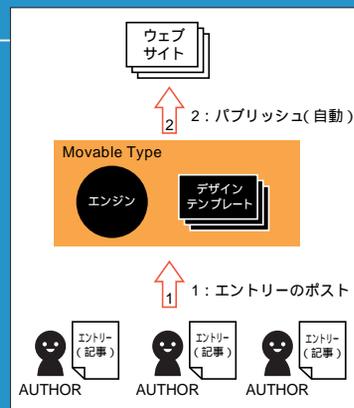
これに対しMTがもたらすチーム構成が図2だ。MT(CMS)が介入することで、ウェブ制作チームは、肝心のコンテンツを作るAUTHORになる。MTを導入することで、ウェブ制作チームの一番の仕事は「コンテンツのクオリティを維持する」ことに移るのである。

図1 古いウェブ制作組織



「ウェブ制作チーム = 雑務担当」となっている。記事は他の人(AUTHOR)に依頼する。しかもウェブ制作チームが1ページごとに管理・編集し、デザイナーに渡してHTMLにコーディングして、アップロードする作業(1、2、4)が発生する。技術的な要望が上がると、技術スタッフとも調整をして(3、4)と、マルチプレイヤー的なスキルが望まれる。

図2 MTによるウェブ制作組織



MTが制作スキームの中に入ること、ページごとにデザインやHTMLコーディングをする必要がなくなる。AUTHORがエントリーをポストすることで、あらかじめデザインした「テンプレート」にそれが適用され、自動的にウェブサイトに反映される。



まずはウェブログを作成して 初期設定だ

さあ、それでは実際に新しいウェブログ (Blog) を設置するところから始めてみよう。今回は以下のような手順で、セットアップとエントリーのポスト(投稿)を行っていく。

1. ログイン
2. 新しいウェブログの作成と初期設定
3. エントリーのポストと編集
4. AUTHORの追加とチーム編成

まずは前回作ったアカウントを使ってMTにログインし、メニュー画面の右上に現れる「新しいウェブログの作成」をクリックしよう(図3)。

「新しいウェブログを作る」という画面では、6つの項目を入力していく(図4)。まず初めに「ウェブログの名前」だ。日本語でも英語でも自由に入力して構わない。

次は「Local Site Path」だ。サーバー内部でどこにウェブログのファイルを置くかを指定する。前回のインストール時に「StaticWebPath」で指定した方法(ファイルパス)で、今回作成するウェブログ用のディレクトリーを指定する。自分が使っているウェブサーバーで、公開するファイルを置く場所がどこなのかを調べて、そのどこかにBlog用のパスを作って指定しよう。パーチャルサーバーを使っているホスティング業者の場合は「/」で始まる絶対パスを入力してもうまくいかない場合があるので、そのときは相対パスで指定するといいたろう。このパスのパーミッションは「777」に指定する必要がある。MTのファイルやCGIをインストールしたディレクトリーとはまったく異なるので注意しよう。

「Site URL」は、指定したパスがウェブサーバーで公開されたときのURLを指定する。ここではすべてルート下に「rakuraku」というディレクトリーを作った。

MTのメニューなどでは、「ウェブログ」という言葉は「1つの単位として管理される一連のページ群」という意味で使われているので注意してほしい。たとえば1つのウェブサイト「お知らせ」のウェブログ、「サポート情報」のウェブログ、「製品情報」のウェブログのように複数のウェブログが存在することもできる。

図3 Movable Typeのメインメニュー



実際にはテスト用ウェブログが1つあるだけだろう。もし図3のボタンが現れないときは「ウェブログのAUTHORを追加・編集」ボタンを押して、自分のアカウントのアクセス権限を確認してみよう。自分の名前を選んで「Edit」をクリックすればいい。次のページで「システム全体の権限」の2つのチェックボックスに印が付くようにすればいい。

システム全体の権限

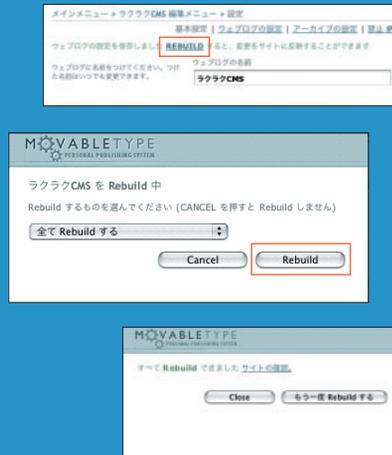
- 新しいウェブログの作成を許可する
- システムログを見ることを許可する

図4 ウェブログの作成画面



ここで一番注意しなければならないのが 2 と 4だ。これを書き間違えると、MTは正常に動作しないばかりか、大切なファイルを上書きしてしまう可能性もある。

図5 MTでは何はななくともREBUILD!



すべての設定後、REBUILDを実行して、最後にこの画面が表示されれば成功!新しいウェブログの誕生だ。

「Local Archive Path」は、ウェブログにポストされた記事を保存するパスだ。基本的にこのパスの中に「archive」というディレクトリーを作ってそこを指定すればいいだろう。「Archive URL」は、指定したパスが、ウェブサーバーで公開されたときのURLとなる。

「Timezone」は、ウェブログを運営する場所の地域を指定する。ウェブサーバーが置かれている場所のことではないので注意しよう。日本国内で利用しているのなら単純に「UTC+9」の日本時間を選択すればOKだ。

最後に「Save」を押して、画面上部に「REBUILD」というボタンが現れたら保存成功だ(図5)。このボタンを押すと小さなウィンドウが現れるので「Rebuild」ボタンをクリックして、「すべてRebuildできました」と表示されるのを待とう。完了して「サイトの確認」をクリックすれば、設定に従ってHTMLファイルなどが書き出される。うまくいけば、できたてほやほやのウェブログのページが表示されるだろう。

もしこのREBUILD中にエラーが起こっ

たら、先程説明したとをチェックしよう。ほとんどのエラーがこの指定ミスが原因だ。また、REBUILDは成功するのに「サイトを確認」ボタンを押した後にエラーが出る場合はとやStaticWebPathのミスの可能性が高い。

ラクラク! エントリーの書き込みと編集

ウェブログの「箱」は完成した。早速、コンテンツを登録して、中身を埋めてみることにしよう。MTには、「ページ」という概念がなく、代わりに「エントリー」という単位でコンテンツを登録する。コンテンツとは、デザインを抜いた純粋なテキスト・画像のことを指し、簡単なHTMLで記述できる。登録したエントリーは、MTにあらかじめ保存されたテンプレートが適用され、自動的に鮮やかにデザインされたウェブページとして書き出される仕組みになっている。

エントリーは、ウェブログのメニューの

「Entryの新規作成」ボタンから行うことができるので早速クリックしよう(図6)。

コンテンツの登録は簡単だ。電子メールソフトでメールを送るときのように「タイトル」と「内容(Entryの内容)」を記述するだけでいい。もし、詳細の内容も保存しておきたい場合は「Extended(追記)」にも記入できる。最後に、下段にある「Post Status」のメニューを「Publish」に変更して「Save」ボタンを押せば完了だ。ここで「Draft」のままにすると、エントリーした内容はウェブログには公開されず、MTのデータベースに保存されたままになる。執筆途中のコンテンツなどはDraftで一時保存しておき、作業が終了した時点でPublishにするという方法もある。

すべてのフィールドで、HTMLタグを利用できるので、必要であれば本文中の語句を<s>タグで打ち消したり、タグでリンクを書き込んだりもできる。もちろんテキストのベタ打ちでも問題はない。MTはスタイルシートのテンプレートが利用できるので、見やすいデザインに修正していけばいい。

図6 記事の投稿はメール感覚で

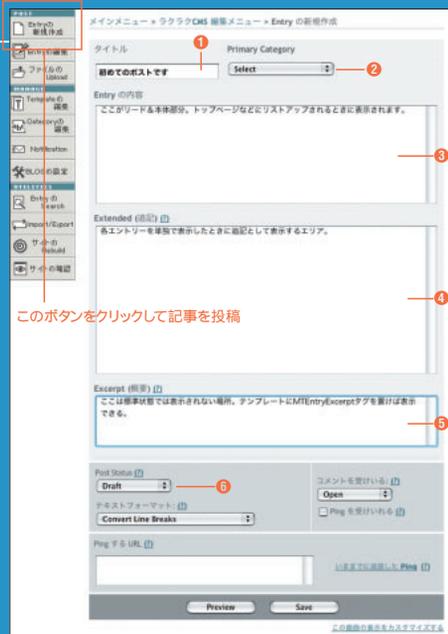


図7 記事がページに表示された!



「タイトル」と「内容(Entryの内容)」は普通のメール感覚で書けばいいだろう。「Primary Category」は、エントリーにカテゴリーを設定できるメニュー。今回は取り上げない。「Extended(追記)」は記事の補足情報で、トップページなどのインデックスページには表示されず、単独でコンテンツが表示されるときに全文表示される。「Excerpt(概要)」にエントリーの概要を記述しておけば、FeedReader(Blogのサマリー情報を入力するソフト)などで閲覧がしやすくなる。「Post Status」は、保存する記事の状態を設定するもの。「Draft」でエントリーはDBに保存される。「Publish」にすればDBに保存されたうえでウェブログのページとして公開される。

初めてのエントリー。日付の下に「タイトル」「本文」が表示される。「続きを読む...」というボタンは、図6の「Extended(追記)」にテキストを入力した際、自動的に現れるもの。クリックすれば全文が表示される。「02:57AM」というボタンも同じ機能をする。「コメント(0)」というボタンが表示されているとき、これをクリックすると、この記事にコメントを残すことができる。タイトル以下の左側エリアは「カレンダー」や「サイト内検索」「アーカイブ」「最近のエントリー」などの基本情報が表示される。エントリーは、右側の大きな空白のエリアに表示されるようになる。

登録後は、左メニューの最下部にある「サイトの確認」ボタンを押そう。すると別ウィンドウが開いて、エントリーがウェブログに登録されたことがわかるはずだ(図7)。追加エントリーはどんどんここに登録されるようになるので、CMSのだいご味を実感するためにも、いくつかエントリーを作ってみてほしい。

実際にいくつかエントリーをしてみると、「この部分を直したい」という欲求が生まれてくる。そんなときはウェブログのメニューから「Entryの編集」ボタンをクリックしよう(図8)。するとすでに保存したエントリーが一覧表示されるので、編集し直したいエントリーのタイトルをクリックすれば、再びエントリー編集画面が表示されるの

で自由に修正できる。

画像のアップロードも ラクラク!

また、画像をエントリー内部に表示させたいときは、当該エントリーを表示させたいうえで、左メニューの「ファイルのUpload」ボタンをクリックしよう。ファイル指定ダイアログが表示されるので(図9)「ファイルの選択」ボタンをクリックして画像ファイルを指定しよう。下段には“Upload先を選んでください”とあるが、ここはデフォルトのまま「Local Archive Path」でいい。このパスは、ウェブログを設定したときに入

力したものと同じになる。

アップロードが完了すると表示される画面(図9)で、「UploadしたファイルのHTML」を選択することにより、現在表示されているエントリーに画像タグを埋め込むことができるようになる。そして最後に、「Popup Image」が「Embedded Image」ボタンを選択するわけだが、ここでは「Embedded Image」をクリックしよう。Embedded Imageを選択すれば、エントリー本文の中に画像が埋め込まれるようになる。最後に画像タグが表示されるので、それをコピーしてエントリー本文にペーストすれば終了だ。

もしここで「Uploadしたファイルを使って、新しいEntryを作る」を選択すれば、自動的に画像タグが挿入された新しいエン

図8 記事は一覧から選んで編集できる



Open / Draftに関係なくすべてのエントリーのリストが表示される。タイトルをクリックすれば再編集できる。右端の「Delete」にチェックを入れて「Delete」ボタンを押せば、エントリーを削除することも可能だ。

図10 ファイルのアップロード2



「Uploadしたファイルを使って、新しいEntryを作る」か「UploadしたファイルのHTMLを表示」を選択できる。最後に「Popup Image」が「Embedded Image」のボタンを押せばいい

図9 ファイルのアップロード1



「ファイルの選択」ボタンを押すと表示されるダイアログを使って、アップロードしたいファイルを直接指定する。Upload先は、デフォルトのLocal Archive Pathがわかりやすい。

図11 画像タグの埋め込み



でき上がった画像タグは、エントリー本文の好きなところに配置すればいい。タグ内にalign="left"と記入すれば左寄せでテキストを回り込むことができる。この辺は、普通のHTMLタグと同じなのでいろいろ試してみよう。

トリーページが開かれる。

AUTHORの追加と チーム編成

思いつくままエントリーすれば、それが整然とウェブログにパブリッシュ(出版)されていくMTのシステム。ここまでの説明で、MTを導入することでコンテンツの追加・更新が、驚くほどスマートになることを理解していただけたと思う。

これまで、この連載では“コンテンツ登録の手間がなくなれば、その質の向上のために力を費やすことになる”ということをお話してきたが、まさにその状況が今、MTユーザーにやってくるのである。旧態依然としたウェブ制作組織のように、美しいデザインにかまけて、肝心のコンテンツの質が落ちては本末転倒である。せっかくのCMS = MTを手に入れたのだから、コン

テンツを向上させるためのチームを編成して、より質の高い情報配信サイトを運営していきたいところだ。

MTには、複数のコンテンツ担当メンバー = AUTHORが、自由に新しいコンテンツを追加したり編集したりできるようになっている。もちろん各アカウントは管理されるので、それぞれのメンバーに担当権限を与え、ウェブログの運営を効率良く分担するのも容易だ。

記事投稿メンバーの追加

メンバーの追加は、例によって非常に簡単だ。まず覚えておいてほしいのは、MTインストール直後に用意であった「Melody」アカウントは「管理者権限」になっているということだ。おそらく自分のアカウント名に変更してあることだろう。

AUTHORの追加などは管理者でしか行うことができない。

まず、ログイン後「ウェブログのAUTHORを追加、編集」をクリックしよう。ページ下段に(図12)“ユーザー名”、“Emailアドレス”などの登録フォームが表示されるので、参加させたいメンバーの情報を入力しよう。そのとき、右側にあるウェブログのリストから、参加させたいウェブログにチェックを入れるのを忘れないように。MTは複数のBlogを運用でき、AUTHORをそれぞれに割り当てることができるのだ。

登録後、編集するAUTHORを上段のプルダウンメニュー(図13)から選んで「Edit」をクリック。すると下段に、“システム全体の権限”やその他の細かい権限のチェックボックスが登場する。

ここで“どのAUTHORにどの権限を与えるか?”という問題があるが、ざっと分類すると図14のような図で定義できる。た

図12 メンバーの追加

実際、この画面でパスワードを入力させるのは、いろいろな意味でフェアではないので、暫定パスワードを入力して、あとでメンバーに変更してもらおうとスムーズだ。

図13 権限の設定

「Post(投稿)」と「ファイルのUpload」Entryの編集」にチェックをすれば、基本的な投稿は行える。

たとえば“管理者 = AUTHOR1”であれば、文句なくすべての権限を与える必要がある。ウェブログの一部を担当する“運営スタッフ = AUTHOR2”なら、システム全体の権限のほか、担当するウェブログの権限はすべて利用できるようにしておきたい。逆に、一部のウェブログだけを担当する“コンテンツ担当スタッフ” = AUTHOR3 ~ 5は、余計な手間を掛けさせないように、コンテンツの編集に関する権限だけを与えておきたい。最後に“コンテンツディレクター” = AUTHOR6は、コンテンツ権限に加えてデザインテンプレートの編集を割り当てる。コンテンツディレクターは、場合によってはそれ以外の権限も必要になると思われるので、適宜対応してほしい。

これで新しくメンバーを参加させることができるようになるはずだ。初めにいくつか準備が必要だが、エントリーをすれば、新しいメンバーの名前(またはニックネー

ム)でウェブログにコンテンツがパブリッシュされるようになる。

まとめ

随時更新のCMS = Blogの導入によって、ウェブサイト運営の焦点は、「企画・デザイン重視」から「コンテンツ制作チーム組織の活性化重視」にシフトする。これまでのように「見た目キレイ」ではうまくいかず、常にサイトに関する情報に目をくばり、かつサイト運営チームと最大限の知的創造活動を継続しなくてはならなくなる。これはつまり「編集」の領域であり、新しい言葉で言えば「知識コミュニティ」の領域へ足を踏み入れることとなる。

特にBlogは、単なる情報配信にとどまらず、他のBlogサイトやユーザーコミュニティとの関係性が成否のキーとなる構造

を持っている。是非その辺を考慮していただきながら、CMSの可能性を模索していただきたい。

なお次回は、デザインテンプレートを編集し、Blog風ページを「独自のCMSサイト」へと進化させていく。

実際に作ってみました

例によって、サポート用のサイトをMTで作ったので、参考してほしい。

「ラクラクCMSブログ」

URL <http://www.metamix.com/rakuraku/>

その他筆者のブログ「METAMIX! maskin's Blog」内にも「CMS」というカテゴリが用意されているので最新動向はここでチェックだ。

URL <http://www.metamix.com/>

図14 MT AUTHORの権限



MTの基本的な権限はおおむねこのように分類できる。役割によって与える権限を振り分けすれば、効率のいいコンテンツ制作スキームが形作られる。

図15 新メンバーはまず言語の変更を



新しいメンバーがログインしたら、まず最初に「EDIT YOUR PROFILE」をクリックしてから「Preferred Language」を「Japanese」にする。これで日本語モードになる。そしてパスワードを自分だけが知らないものに変更しよう。あとはここに書いたエントリーと手順は同じだ。入力したエントリーには、各AUTHORの名前が表示されるようになる。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp